

平成 30 年 6 月

魚津市定例記者会見



日時：平成 30 年 6 月 1 日（金） 午後 1 時 30 分～

場所：市役所第一会議室

報道出席者：北日本新聞社、富山新聞社、北陸中日新聞社、朝日新聞社

KNB、チューリップテレビ、NICE TV、ラジオミュー
ラジオミュー

市当局出席者：市長、副市長、教育長、企画総務部長、産業建設部長
企画政策課長、市民課長

1. 市長からの発表事項

(1) 6 月市議会定例会に提案する補正予算の主な内容

・【新規】魚津市ケーブルテレビネットワーク光化促進事業

災害時の安定した情報伝達や今後の 4K 放送などの視聴環境に対応するために、現在の同軸ケーブルを段階的に F T T H 化（光ケーブル化）する。併せて通信系センターの設備を更新する。

（説明内容は別添プレスリリースのとおり）

・【新規】地域密着型介護基盤整備事業

市では第 7 期介護保険事業計画（平成 30 年度から 32 年度）においてグループホームの増設を計画している。地域密着型介護基盤整備事業は、富山県地域密着型介護基盤整備補助金を活用し、民間のグループホーム整備事業に補助を行いグループホームの整備を進めるものである。

なお、整備事業の実施主体となる法人は公募により選定する。

（説明内容は別添プレスリリースのとおり）

(2) 「魚津市防災力向上会議」を初めて開催します。

今回初めて開催する魚津市防災力向上会議は、市からの防災情報の提供などの内容やテーマを変えながら、また関係各機関からの防災情報を地域全体で共有し地域防災力を高めていけるように、毎年この時期に開催していきたいと考えている。

（説明内容は別添プレスリリースのとおり）

2. 教育委員会及び各部長からの説明事項

〈教育長〉

- ・第6回魚津市長杯争奪富山湾横断屋気楼ヨットレース
- ・2018 桑山杯「おんばたヨットレース」
- ・企画展 米騒動から100年「魚津の米騒動」展（11月まで）
- ・「たてもん協力隊」Tシャツ“プレイバック展”

今年度もたてもんボランティア『たてもん協力隊』を募集する。昨年度は300名を募集し県外からもたくさん応募があったが、いざ本番を迎えたらキャンセルが予想以上にあり引き手が不足した地区もあった。そのことから今年度は350名程度を募集し、万が一キャンセルがあっても300名は確保したいと考えている。

- ・あすチャレ！（車椅子陸上体験）

元パラリンピック陸上短距離日本代表選手永尾嘉章さんが講師として、車椅子陸上の体験活動を行う

〈企画総務部長〉

- ・6月魚津市議会定例会（～22日 会期16日間）

7日本会議終了後の全員協議会で、3月議会の当初予算附帯決議「早急に財政見通しを示すこと」についての「財政見通しについての説明」を暫定のものではあるが行う予定である。

- ・「てくてくのまるばん」で魚津をはさもう！～うおづ移住者交流会2018vol.1～
地域おこし協力隊河野隊員の企画。魚津市新角川の「パンと焼き菓子の店『てくてく』」で開催。
- ・地域おこし協力隊による魚津の紹介動画の発信を開始
地域おこし協力隊池田隊員と李交流員（台湾出身）による魚津市の紹介動画「WOW! UOZU」の配信を開始。
- ・プロ野球オールスターゲームファン投票
石川歩投手（魚津市出身）「オールうおづ」で応援しよう
石川歩後援会より、石川歩選手のオールスターゲーム出場を後押しするポスター掲示等について要請があり、市としても石川歩選手の活躍により地域が元気になると思われるので、ポスター掲示を関係機関に呼びかけ石川歩選手を応援する。

〈市民課長〉

- ・魚津市国民健康保険の特定健康診査が6月1日から始まります

特定健康診査の受診率向上を目指して、市民課医療保険係、健康センターの職員がキャッチフレーズをバックプリントしたポロシャツを着用しPRを行う。その他特典付きの特定健診受診率UPキャンペーンも行う）

〈産業建設部長〉

・つくるUOZUプロジェクト「GAMEサミット」を開催します

今年度はプロジェクトの一環として、ゲーム開発者育成・支援イベント「GAMEサミット」を定期的で開催していく予定としている。

3. 質疑応答の内容

「魚津市ケーブルテレビネットワーク光化推進事業について」

《記者からの質問》

魚津市ケーブルテレビネットワークというのは、いわゆるNICE TV（新川インフォメーションセンター）という理解でよいか。

《回答》（企画総務部長）

市が実施主体であり市の施設であるが、指定管理で管理・運営の全部をNICE TV（新川インフォメーションセンター）にお任せしている関係になる。

《記者からの質問》

現在の同軸ケーブルについては老朽化が進んでいるということだが、今回の工事の第1期の対象は、何世帯、何事業所か教えてほしい

《回答》（企画総務部長）

今回、国からの補助金が当初想定した半分程しか付かなかったこともあるので、第1期の工事エリアは、ケーブルテレビのエリア加入率・インターネットの契約数が多い地区を最優先した。参考にいうと、市役所周辺と、道下・経田エリアを中心に第1期分の工事を行う。そのエリアは2,841世帯あり、ケーブルテレビ加入は2,095世帯で加入率73.7%である。このエリアが第1期工事エリアの対象になる。市全体では、約15,800世帯あるうちの10,966世帯が加入している。加入率の平均は約69%である。より加入率の高いところから取り組むという考え方である。インターネットもそのような感じで、第1期工事は約900件の加入件数エリアになる。

《記者からの質問》

災害時等の確実かつ安定的な情報伝達とあるが、光化すると同軸ケーブルに比べてどのように違うのか。

《回答》（企画総務部長）

同軸ケーブルだと雷に弱いという要素がある。北陸地方は雷がかなり多いのでどうしても同軸ケーブルは弱いと一般的にいわれている。また、同軸ケーブルは伝達できる容量が少ない。

《記者からの質問》

幹線を光化するという話であるが、各世帯までは加入者が工事するのか。

《回答》（企画総務部長）

宅内引込に関しては、指定管理者（新川インフォメーションセンター）のほうで工事費用等について考えている。当然、幹線が光化すれば、宅内引込についても代

えないと利用できないので同時に行っていく。

《記者からの質問》

通信系センター設備更新等とあるのは、光化に必要な機器の更新ということか。

《回答》（企画総務部長）

そのとおりである。商工会議所ビルに設置してある一番コアな設備である。

《記者からの質問》

同軸ケーブルを光ファイバー化すると、何がどのくらい速くなる等教えてほしい。

《回答》（企画総務部長）

まず、送れる情報量が圧倒的に光ファイバーのほうが同軸ケーブルより多いので、スピードは非常に速くなり、インターネットの環境も非常に速くなっていくということはあると思う。また、国では2020年東京オリンピックに向けて、4K対応の映像を配信する計画で整備を進めているので、そのような環境も光化することで整えられる。市では、防災面を主目的としているがそのような効果もある。併せて、同軸ケーブルの製品が既に生産されていないため、部品の対応年数が過ぎて痛んでしまっても交換できなくなっている。光化することで老朽化対策にもなると考えている。